

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 夢の実現に向けて、自ら考え、行動するところ豊かな生徒の育成

目指す子どもの姿 夢を持つ生徒・命と人権を大切にする生徒・学が意欲が高い生徒・自らさわやかな挨拶ができる生徒

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市長 堀田幸校
研究主体【 研究推進委員会 興】

前年度			継続性	4月			2～3月 年度末評価		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員点検	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
・夢や目標を持ち、自らの考えを表現できる生徒の育成	◆学校評価における「将来の夢や目標を持っている」の肯定的な回答が71%となり、目標の80%は達成できていない。 ○全国学力・学習状況調査における「12年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という質問項目において「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と答える生徒の割合は82%で目標の50%を達成できた。 ○全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思わず」「自分の肯定的な回答が96.5%(R6.88.9%)となり昨年度から7.6ポイント増加し、目標の80%を上回った。 ・「夢や目標をもっている」と答える生徒は目標は達成できていないが昨年度の89.3%から1.5ポイント増加しており、取り組みの成果が出つつある。本年度より探究学習の時間を設定したことや、個別最適な学びや協働的な学びを促進し、生徒指導の3機能を意識した授業展開を実施したことが要因と考える。	B	→	・夢や目標を持ち、自らの考えを表現できる生徒の育成(b、c、f、g)	・学校評価における「将来の夢や目標を持っている」の肯定的な回答が80%を上回る。 ・全国学力・学習状況調査の「自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表しましたか」という質問項目において、「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と答える生徒の割合が50%を上回る。 ・全国学力・学習状況調査における「自分にはよいところがあると思います」の肯定的な回答が80%を上回る。	・各授業の中で実生活と関連つけた課題の設定や生徒指導の3機能(自己存在感・共感的人間関係・自己決定の場)を活かした授業展開を意識し、生徒一人ひとりが活躍できる場の設定をする。(各教科の授業で小グループでの活動の充実を図り、自分の考えや思いを発表する場面を設定する。) ・カリキュラム・マネジメントの充実を図る。(教科横断的な計画、PDCAサイクル、様々な教育資源の活用) ・研究授業を行い、授業内での協働学習の在り方について、教員間で意見を交流する機会を設ける。			
・家庭学習習慣の確立と充実	◆学校評価における、生徒・保護者アンケートで「家庭学習の習慣ができていない」の項目は生徒52.3%、保護者48.7%となり、目標の70%に到達できなかった。 ◆全国学力・学習状況調査の質問項目において「平日の学習時間1時間以上」の割合は62.1%で全国平均61.6%と同程度であったが、「休日の学習時間1時間以上」の割合は55.1%で全国平均57.9%を2.8ポイント下回った。 ・家庭学習の習慣化は本校の喫緊の課題である。次年度も引き続き具体的な手立てについて改善を図る。	C	→	・家庭学習習慣の確立と充実(c、f)	・学校評価における、生徒・保護者アンケートで「家庭学習の習慣ができていない」の項目が70%以上の肯定評価となる。 ・全国学力・学習状況調査における1日あたりの学習時間が全国平均を上回る。	・各教科において、基礎的、基本的な家庭学習の課題を出すことで、家庭学習の習慣を確立する。 ・各教科で作成している評価のシラバスを活用し、身に付けたい力(単元の目標)を生徒と共有して、主体的な学習の取り組みを促進する。 ・各学期考査前に学習時間や取り組み等の目標を設定し、主体的な学習習慣の育成を図る。			
・学習規律の徹底と学力補充の充実	◆全国学力・学習状況調査における各教科の平均正答率は、国語は大幅に上回ったが、数学は全国平均を若干下回った。 ◆学校評価アンケートの質問項目において、「授業に真剣に取り組んでいる」と答える生徒の割合が88.8%となり、目標の90%を下回り、達成できなかった。 ◆学校評価アンケートの質問項目において「授業内容でわからないことを質問しやすい」の項目が72.9%と目標の80%を下回った。 ・各教科単元テストを随時実施して形成的評価を通して、生徒一人一人に応じた指導を実施した。個々の課題に応じた指導を継続的に実施して、家庭学習の定着にもつながるようにしていく。	C	→	・学習規律の徹底と学力補充の充実(e、c、f)	・全国学力・学習状況調査における教科の平均正答率が国語・数学ともに全国平均より上回る。 ・学校評価アンケートの質問項目において、「授業に真剣に取り組んでいる」と答える生徒の割合が85%を上回る。 ・学校評価アンケートの質問項目において「授業内容でわからないことを質問しやすい」の項目で80%を上回る。	・各教科で単元小テストを実施し、基礎学力の定着を細目に確認する。 ・兵庫型学習システム推進教員との打ち合わせ時間を確保し、少人数授業で生徒の課題や授業展開について共通理解を図り、きめ細やかな指導に努める。 ・個々の生徒に応じた学習指導を行い、基礎基本の定着を図る。 ・授業内で質問の時間を設定し、わからないところをクラス全体で共有する等、生徒の「わかる」「できる」につなげる。			
・課題解決型の授業構成を中心とした授業改善	◆全国学力・学習状況調査の質問項目において「授業の内容がよくわかる」と肯定的に答える生徒の割合について国語68.9%(全国77%)、数学58.6%(全国平均70.3%)、理科65.5%(全国71.4%)とすべての教科で全国平均を下回った。 ○学校評価アンケートの質問項目において「授業が分かりやすいように教え方を工夫している」と感じている生徒の割合が96.9%と目標の80%を上回った。4月時点(全国学力・学習状況調査)と1月時点(学校評価アンケート)を比較すると、授業での指導改善を通して「授業がわかりやすい」と感じる生徒の割合が増加したと考えられる。 ・今年度は全教員が公開授業を実施して授業改善に年間を通して取り組んだ。研修担当より、公開授業をフィードバックするための資料(連絡)を発行し、授業力向上を図った。次年度も継続的に授業改善を検討する場や研修の場を設けていく。	B	→	・課題解決型の授業構成を中心とした授業改善(a,b,d,e)	・全国学力・学習状況調査の質問項目において「授業の内容がよくわかる」「勉強の内容がよくわかる」と答える生徒の割合が全国平均を上回る。 ・数学の活用問題、国語の言語事項の問題で正答率が全国平均を上回る。 ・学校評価アンケートの質問項目において「授業が分かりやすいように教え方を工夫している」と感じている生徒の割合が85%を上回る。	・全教科において「課題解決型」の授業構成と「めあて」の明確化と「振り返り」活動の充実を図る。 ・校内での公開授業を各学期で設定し、教職員が相互に授業参観し反省・検討を重ね、授業力向上を図る。 ・校内研修会に講師を招聘し、授業づくりの研修を行い指導力の向上に努める。 ・学習者用デジタル教科書やICTを活用した授業により、主体的・対話的な取り組みを積極的に展開する。			
・すべての生徒が命と人権を大切に、安心・安全に過ごせる学習環境の構築	○全国学力・学習状況調査の質問項目において「人が困っているときは、進んで助けている」は肯定的な回答が93.1%(R6.88.8%)で目標の90%を上回った。 ◆学校評価アンケートの質問項目において「自分の意見を自由に言える雰囲気がある」における肯定的な回答が76.7%となり目標の80%を下回った。 ◆学校評価アンケートの質問項目において「誰に対しても気持ちのよいあいさつができる」における肯定的な回答が91.6%となり目標の91.7%をわずかに下回った。 ・全国学力・学習状況調査では「自分にはよいところがある」と肯定的に解答した割合は96.5%(R6.88.9%)1、全国86.2%と昨年度から7.6ポイント、全国から10.3ポイント増加し、これまでの取組の成果と考える。 ・体育大会、全校運動会や探究学習においては学年を隔てて縦割りグループで実施して自己肯定感や自己存在感を高められる場を多く設定した。次年度以降も継続して実施していきたい。	B	→	・すべての生徒が命と人権を大切に、安心・安全に過ごせる学習環境の構築(c,f,g)	・全国学力・学習状況調査の質問項目において「人が困っているときは、進んで助けている」は肯定的な回答が90%を上回る。 ・学校評価アンケートの質問項目において「自分の意見を自由に言える雰囲気がある」における肯定的な回答が80%を上回る。 ・学校評価アンケートの質問項目において「誰に対しても気持ちのよいあいさつができる」における肯定的な回答が90%を上回る。	・各学年、人権教育の推進を図り、人権作文や部落差別解消に向けた授業実践を行う。 ・道徳教育において「相手を思いやる気持ち」や「あいさつの大切さ」について考える機会を設定する。 ・総合的な学習の時間における「探究」の時間において自分の意見を述べる場を設定し、自己肯定感や自己存在感を高められるように工夫する。 ・生徒会活動の中に「気持ちのよいあいさつ」について考える機会を設定する。			
・学力向上に向けた園所連携推進及び、家庭、地域との連携と協働の推進	○各学期1回(3回/年)の学校園所連携連絡会を開催し、中学校区として「目指す子ども像」を確認し、職員会議等で全教職員で共通理解を図った。 ○小中連携の充実を図り、系統的なキャリア教育を推進し、公開授業への参加等積極的に発信することができた。 ○学校運営協議会(3回/年)と民生・児童委員代表者会(2回/年)を開催し、校区全体で協働し、校区全体で協働し生徒を育てる認識を深めることができた。	A	→	・学力向上に向けた園所連携推進及び、家庭、地域との連携と協働の推進(c,f)	・各学期1回(3回/年)の学校園所連絡会を開催し、中学校区として「目指す子ども像」を確認し、全教職員で共通理解を図る。 ・長坂中学校区、保幼小中の連携プランを基に、系統的な教育を推進する。 ・学校運営協議会(3回/年)と民生・児童委員代表者会(2回/年)を開催し、校区全体で協働し生徒を育てる認識を深める。	・中校区内の児童生徒の「目指す子ども像」の共有と現状の把握、課題の分析を学校園所が連携して取り組む。 ・系統立てた学びや成長を実感できるキャリアパスポートの活用を推進し、人間関係形成・自己管理能力・課題対応能力の育成を図る。 ・学校行事、オープンスクールや授業参観の機会を設け、学校・家庭・地域の連携を推進する。			

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1～5の5段階評価)の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず